

2011年3月11日に起こった東日本大震災。震災発生当時から今日に至るまで震災復興への大きな役割を担っている建設業界。自らも被災しながら、人命の救助、救援、復旧のために貢献した建設会社が多数ありました。地元の建設会社では、震災時に辺り一面を覆ったガレキから道路を啓く「啓開」や人命救助、物資の輸送、ガレキ処理、復旧工事、仮設住宅の建設等の他、あまり報道されていませんでしたが、「仮埋葬」、「水産加工物の海洋投棄」など多岐にわたって復興のために尽力されました。

宮城県建設業協会では、平成10年に宮城県と災害協定を締結し、平成22年に見直し改定を行うとともに、定期訓練を実施していたことから、いち早く道を啓き、救援部隊の移動、物資輸送、人々の避難が迅速に行うことができ、建設業なくては今日までの復興は出来なかったでしょう。震災当日の夜、ライフラインが途切れ、電気もない状況で、いち早く地域に灯りをともし、食事や寝泊りする場所、トイレの提供も建設業が担っていたのです。建設業界は、実は危機管理産業と言えると思います。長期化が予想される復旧・復興には様々な問題が発生していますが、中でも技術者・労働者の人材不足は深刻です。私たちは、公共構造物などの社会資本がなければ生活出来ません。宮城県建設業協会への取材を通して、建設業は生活の中に大いに密着しており、人命や暮らしを守るという大きな使命感を持っていると感じました。



※伊藤事務理事とグリーンウォーカーメンバー

宮城県がすすめる環境配慮行動について ～あなたもできる環境への取組み～

宮城県では、環境に配慮した行動「e行動」を実践している、あるいはこれから始めようとする県民・事業者のみなさんを応援するため、積極的な環境配慮行動の実行を宣言していただく「みやぎe行動(eco do!)宣言」を平成19年6月から展開しています。県民の方(個人)向けの「わたしのe行動(eco do!)宣言」と県内の事業者向けの「わが社のe行動(eco do!)宣言」があり、日々の生活や業務の中で取り組んでいただきたい項目を選択・登録し、実践していただくものです。

宣言していただくには、①登録依頼票を送付、②県のホームページから電子申請の2つの方法があり、宣言されると、宣言をされた方のお名前(事業者の方は事業所名)の入ったオンリーワンの「e行動(eco do!)宣言」登録書をお送りします。平成26年1月末日までに、27,895名の県民の方、424の事業者が宣言されています。みなさんも「e行動(eco do!)宣言」の仲間入りしませんか。



また、県ではグリーン購入の促進に資する環境物品等の普及拡大及び、県内における循環資源の活用を推進するため、認定基準に適合する環境にやさしい製品を「宮城県グリーン製品」として認定しています。平成26年1月1日現在で、46事業者の85製品を認定しています。認定品の多くは、県内で発生した廃棄物や未利用資源などを有効活用して製造または加工された環境物品などとなっています。この原料となる循環資源は、間伐材や被災木材のような県産木材をはじめ、古紙やプラスチックごみの分別に由来するものなどもあり、家庭や事業所における分別や回収を進めることによって、身近なものが形を変えて、再び私たちの生活を豊かにしてくれるのです。



宮城県環境生活部環境政策課環境計画推進班
Tel : 022-211-2663 http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyos/

発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6 (NPO法人環境会議所東北内)
TEL:022-218-5451 FAX:022-375-7797
E-mail m-green@miyagigpn.net URL http://www.miyagigpn.net



みやぎGPNニュースvol.9



2014年のスタートに思うこと

代表幹事 猪股 宏(東北大学大学院工学研究科・教授)



2014年になりました。2011年3月の震災からはや3年になるわけです。・・・
個々人で考えるところが多々あると思います。本稿では、みやぎグリーン購入ネットワークの会員の皆様に対して、復興に対する私見、ならびにGPNに関係して最近思うことを述べていただきます。

震災復興・・・どこまでが復興と呼べるかが問題ですが、全体としての復興は、まだでしょうというのが個人的な思いです。仙台市街地で生活している限りでは、2011年以前に戻った、あるいは新装されたように感じるこの頃ですが、沿岸部などに足を向ければ風景の様変わりは一見にしてわかります。仙台市の南蒲生の

の下水処理も、従来の「沈殿処理→生物処理→滅菌消毒→放流」という処理は不可能で、70%程度の段階的水質として「沈殿処理→接触酸化法」で対処している状況です。でもこのような現況を把握している人は何%いるのでしょうか？ おそらく、非常に少ないでしょう。やはり、自分で見聞きしたものが多くの場合の判断根拠になるため、身の回りの景色から判断されることになり、結果として上述のようになることはやむを得ないことでしょう。つまり、情報による世論のコントロールの可能性を示唆するものであり、大変危惧しております。

これに対して、私としては、自分の思いや根拠に基づいて行動するしかないと考えています。周りを気にせず、自信をもってマイペースで考えて行動するのです。もちろん、社会常識の範囲での話です。実際は容易ではないでしょうが、続けると、できるような気になるものです。グリーン購入もそのような活動に入らざるを得ないでしょう。経済性、迅速性からは別の選択肢がある場合でも、自分は「グリーン購入」・・・、かついいのですきつと。そのうちに仲間が増えるはずですよ。

会員の皆様にも、自分でできることから始めて、次に周囲の方への周知・拡大をお願い致します。

みやぎグリーン購入セミナー ～地域から始まる復興へのプロジェクト～

■平成25年10月25日(金) 夢メッセみやぎ 展示棟ステージ

主催:宮城県 共催:みやぎGPN 参加者:56名

講演「カーボンデモクラシー(低炭素革命)プロジェクト」

おおさきバイオエネルギー協議会事務局長・有限会社千田清掃代表取締役 千田信良氏

- 備蓄軽油 8000ℓを提供、震災直後から緊急災害給油基地として、公的機関の自家発電機、公用車等緊急車両のほか、沿岸部の同業者や他県から応援にきた災害支援車に対する給油活動、バキューム車2台を沿岸被災地に運行させ公衆衛生確保に貢献するなど地域の復旧支援活動を支えた。
- 大崎市・東北大学と連携して、津波で塩害被害を受けた農地や放射能汚染農地を再生する菜の花プロジェクトを展開。
- 公的機関と災害協定を結び、備蓄供給施設としてのシステム構築、ハイブリッド発電による電力喪失回避・蓄電のための災害対応型エコエネルギー供給ステーションを計画。



事例紹介「福島再生に向けて オーガニックコットンプロジェクトの試み」

NPO法人ザ・ピープル/いわきおてんとSUN企業組合代表 吉田恵美子氏

- 「いわきおてんとSUMプロジェクト」3つの事業を柱に復興まちづくりを展開。
- 1.オーガニックコットン・・・農業の再生のため、コットンの有機栽培・Tシャツやコットンペイプの製品開発・販売により市民参加型事業の創出。コットンの綿と種でできた人形から、種を蒔き綿を育て仕事や人の輪を広げていく。
- 2.いわきコミュニティ電力(太陽光発電事業)
- 3.復興スタディツアー(被災地視察、語り部講和、コットン体験)

グリーン購入事業所見学会 平成25年7月10日(水) 主催:みやぎGPN 後援:宮城県

東日本大震災の復旧・復興が進む中で、身近にできる環境配慮行動である「グリーン購入」の考え方を取り入れて事業を継続させていくことが重要となっていることから、甚大な津波被害を受けながらも苦難を乗り越え、環境に配慮しつつかに立ち直ったかを現場見学を通して参考にしていただくため、見学会を開催しました。(参加者28名)

■株式会社オイルプラントナトリ(廃棄物処理業)

廃食油を資源化する技術を試行錯誤の後確立させ、バイオ・エコ燃料精製プラントを造り、工程から発生する全ての廃棄物をリサイクルしているのは日本ではオイルプラントナトリだけです。

人的被害はなかったものの、津波により工場の流失・破損、収集車両、リフト、営業車、従業員の車両が流され大きな被害を受けました。震災後は、大型タンクローリーなど夜間は、工場から4Km 内陸部に駐車。震災時、二次災害の防止のため家庭から流失した灯油タンクの回収、ガソリンスタンドの燃料や漁船の油の抜き取り、自社流出物の回収に奔走したという。震災8日後に事業再開を果たしたのは、BCP:事業継続計画の成果でした。災害時はどのように連絡、何を優先するか計画し、緊迫した状況でどの事業で生き残れるようにするか決めておくことが重要。単独でBCPを行っても立ち行かないこともあるので、「共助」他社に依頼することも計画に入れることが重要と説明がありました。



■株式会社ささ圭(蒲鉾製造販売業)

名取市閉上にあつた本社社屋、主力工場、本店の全てを大津波で流出したため、内陸部に唯一残った売店を改造し、ささ圭の笹蒲鉾製造再開を望む全国からのお客様の声に励まされ再建を決意しました。震災で50人いた社員のうち3人が犠牲になり、先の見通しが立たない中、震災直後に全社員に解雇を告げたが、再建を決意した時、「工場が再開したとき、戻りたい人は受け入れる」と伝え直したという。

機械も何もない中、会長夫妻から手作業で笹かまぼこを作る技を社員が指導を受け、50年前の幻の製法を今に蘇らせ、「手造り笹かま工房」として平成23年7月1日に再オープン。そして平成24年9月新工場を竣工。本社工場の笹かまライン、揚げかまラインは機能重視のコンパクトな造りで、衛生面が厳重管理された工場であり、排水の循環も考慮されています。続いて名取市増田の手造り蒲鉾工房へ移動して、91歳の会長夫妻らが店の入口の工房で作業している様子を見学。手造り蒲鉾の試食をしながら、佐々木圭亮代表取締役から震災時の状況などお話を伺い、経営者、従業員の復興への強い情熱が伝わってきました。



「リふ環境まるごとフェア2013」に出展しました

開催:平成25年10月6日(日)

場所:利府町グランディ・21 円形広場

主催:リふ環境まるごとフェア2013 実行委員会・利府町

～地球の未来を考えよう 今日この日をきっかけに～をテーマに「リふ環境まるごとフェア2013」が開催されました。「十符の里 利府」フェスティバルと同時に開催のため、多くの来場者で賑わいました。

みやぎGPNは、グリーン購入啓発パネル・環境配慮製品の展示、「グリーン購入ってなあに？」のクイズを実施しました。多くの来場者に「グリーン購入」の名称と意義を知っていただくよい機会となりました。



■新規会員のご紹介

株式会社オプトロム <http://www.optrom.co.jp>

会員数 企業 121 団体 16 行政 19 合計 156

(CCFL 蛍光灯や記録用メディアの製造・販売)

(平成26年3月20日現在)

エコプロダクツ東北2013 みやぎGPNブース 出展者のご紹介(10月24・25・26日)

■コクヨ東北販売株式会社

ここ数年、コクヨでは「つくる時、つかう時、はこぶ時、すてる時」の4つの視点で環境配慮を評価しており、間伐材とオール紙ファイルを中心に展示させていただきました。間伐材ファイルは、つくる時に間伐材を使用することで地球温暖化の原因となるCO2の削減に貢献します。更にすてる時に分別廃棄がしやすく、とじ具が再利用できるなどの設計がされています。また、つかう時の書類の量に合わせて背が広がるガバットファイルなど、長くお使いいただけるように間伐材シリーズの品揃えも充実しております。つくる時にすべて紙を使用したオール紙シリーズは、すてる時に古紙としてそのまま処理することができる為、分別廃棄などの手間を省けるような仕様になっております。過去にご来場いただいた方との会話で、「選ばなくてもお店で購入する商品がエコ商品であって欲しい」、「機能性が優れたエコ商品が欲しい」などの声をコクヨの流通販社として、商品開発部門に伝えて参りました。

2008年度より、コクヨでは4つの視点のいずれかひとつでも環境配慮が十分でない自社商品について、総合カタログ上に「エコバツマーク」を表記し、それをゼロにするという取り組みを行い、2011年度版の総合カタログにおいて、エコバツマークの表示ゼロを達成することができました。東北で1万人以上の方々とエコについてふれあう機会が減多にございません。今後も使う方と作る側の架け橋となって、貢献して行きたいと思っております。

営業推進グループ課長 岩淵 博行



■株式会社鈴木工業

古紙発泡素材「パルフォーム」と「パルフォーム」による日常製品のデザイン

本展示会では、ご来場頂いたお客様方へ、古紙発泡リサイクル素材「パルフォーム」という、「古紙」と「食品添加物」のみで製造をした古紙リサイクル素材をご紹介します。

また、パルフォームをより身近に感じて頂くため、東北工業大学 環境情報工学科の学生に、「エコデザイン」の観点から数点、【パルフォームを利用した「人」や「環境」に負荷の少ない日用品】を試作して頂き、展示を致しました。その結果、老若男女を問わず「素材」及び「試作品」に興味を持って頂き、数多くの貴重なご意見を頂く事が出来ました。皆様のご意見は、今後の「パルフォーム事業」に大いに参考にさせて頂き資源循環型社会に貢献する商品案を検討していきたいと思っております。この他に、パルフォームを利用した「商品案」や「用途」などのご意見がございましたら、お気軽にお問い合わせ頂ければ幸いです。今後は、「エコプロダクツ」のような環境に関するイベント・展示会に積極的に参加させて頂きながら、皆様の生活と身の回りの環境に配慮した事業を確立するべく、日々進化をしていきたいと思っております。

パルフォーム事業推進室推進担当 秋山 茂博



■株式会社セント

弊社の中で新規事業分野としてエコ環境商材の商材開発に力を入れ約3年になりますが、展示会ではBCP対策商材、二酸化炭素の軽減のための商材、初期投資を出来るだけ掛けずに経費の節減商材、自然エネルギー商材、化学合成物質を一切含まない環境にやさしい安心な商材などご紹介いたしました。初日にNHK様に取材され、多くの方の来場があり大きな反響をいただきました。

一般的なガラスが魔法のガラスに変わる「遮断フィルム」。一般的なガラスにグリーン購入対象フィルムを張るだけで、また環境省環境技術実証事業にも認定になっている塗料剤を拭き付ける事で、赤外線、紫外線を吸収し侵入をカットし、暑い夏場も、寒い冬場にも大きな効果を発揮致します。災害時にガラスが割れても飛散しないため安全な空間をご提供する事ができ、さらに防火認定も取得しているフィルム施工が人気です。また、化学合成物質を一切含まないエコで環境にやさしい「水から生まれたクリーナー」は、洗剤を使いたくない方、手荒れをしたくない方へ是非お使い頂きたい商品です。成分が水なのに、驚きの浸透力と分解力で汚れを洗浄致します。今後も機会がございましたら、弊社の取り組み、取り扱い商材をご紹介していきたいと思っております。

復興推進・新規事業推進チーム/エコ環境推進部長 佐藤隆彦

